

〈研究ノート〉

旅行・観光分野の大学英語教科書についての一考察

関 根 幸 雄

(受付 2018年 5 月 30 日)

I は じ め に

本稿は拙稿「大学英語教科書についての問題点と提言——旅行英語およびビジネス英語を中心としたケーススタディ——」（以下、拙稿という）を踏まえて、旅行・観光分野の大学英語教科書についてさらなる考察を試みるものである。

日本総合研究所によると、「2016年3月に策定した観光庁の『明日の日本を支える観光ビジョン』においても、2020年訪日外国人4,000万人、2030年同6,000万人という政府目標を掲げ、観光立国の実現に向けて、あらゆる取組を進めていく必要がある」という。

そうした状況のなかで、インバウンドを念頭においた旅行・観光分野の英語の重要性は増々大きくなっているといえよう。

筆者は、拙稿の結びにおいて、「教育における教科書の役割と責任を果たすために、良質な教科書づくり、そして問い合わせには十分検証したうえでの回答を求める」と述べた。しかしながら、依然として、疑問に感じる英文や検証が十分とはいえない回答などに接することがあり、この分野の大学英語教科書の質的向上のため、再考する次第である。

II 教科書業界の動向

小・中・高の教科書について、2009年8月2日付け「朝日新聞DIGITAL」によると、「教科書業界は厳しい環境にある。…倒産も出ている。08年には

約100年続いた老舗（しにせ）の大阪書籍（大阪市）が倒産。主因は経営者の不動産投資の失敗だが、本業の売上高が低迷する中で起きた。今年5月には、体育の教科書などを作ってきた一橋出版（東京）も倒産。ある教科書会社幹部は『どこも先行きは見えない』と肩を落とす」という。

少子化の影響は小・中・高の教科書会社に及んでおり、2008年の老舗出版社の倒産、そして翌年もう1社が倒産しており、先行きが見えない厳しい状況にあるようである。これは、教科書協会が「平成25年度教科書発行の現状と課題」の中で「昭和60年から始まった児童・生徒数の減少により、28年にもわたる構造的な不況が続き、教科書の売上高は年々減少しています」と述べているように、児童・生徒数の減少による教科書の売上高の減少によるところが大きいといえる。

大学の場合も、18歳人口について、ベネッセ教育情報サイトでは、「2018年には約118万人になり、その後も減少傾向が続いて、ついに2032年には100万人を割って約98万人になると予測されています。今後、大学経営に深刻な影響を及ぼすことは必至です」という。18歳人口の減少により、大学教科書を取り巻く環境も変化してくることが予想され、単純に考えると、学生数が減少することに伴い、その分だけ教科書への需要も減ることになろう。

大学英語教科書協会に以前加盟していたH社について、同協会によると、「数年前に協会を退会しております。法律上（登記上）こういった扱いになっているか分かりませんが、少なくとも大学での営業や学会展示等の活動をしていないと思われます」という。なお、同協会に加盟していない出版社もあるので、大学英語教科書の業界全体を代表している組織ではないものの、こうした出版社が出てきている現状がある。

なお、2017年12月29日付け「YAHOO! ニュース」において、「EXILEのリーダー・HIRO（48）が、来年度の大学英語教科書…に登場することが28日、分かった。同書は時事英語を学ぶ教材として、毎年約100の大学で採用実績がある」と報じられた。大学教科書は、小・中・高とは異なり教科書

検定制度がないので同列には論じられないが、こうしたことでもニュースとして取り上げられるご時勢といえよう。

Ⅲ 大学教育の環境変化と教科書

大学教科書について、島根大学生協は「学びに必要な不可欠な教科書」というが、近年、大学独自に教科書を刊行する動きが見られる。例えば、岡山大学は、教科書刊行の背景として、「教科書の果たす役割を改めて認識し、大学として学生に教授する教育内容と水準を保証するため、また執筆に係る経費を補助することで、価格を廉価に設定でき、学生の負担軽減につながる」という。こうした背景からは、教育の質保証が文部科学省から求められていることとも関連があることが窺え、今後教科書への関心そしてその役割の重要性は高まることになるであろう。筆者としても、大学教育における教科書とは、教育の質保証と関連付けて捉えており、教科書の内容の質も問われてくることになると思う。因みに、原田（2013）は「政策レベルでは、大学教育における大学教科書の役割の重要性は高まってきた。結果として、教科書研究の重要性は高まるであろう」という。

さらに、大学教育の環境変化として、四学期制を導入する大学が増えてきていることがあげられよう。教科書の内容について問い合わせたいことがある場合、二学期制であれば、次の授業までに1週間という時間的余裕があるが、四学期制では、週二回の授業となるので次の授業に間に合うように回答をしてもらわないと次の授業で学生たちに説明できないことになり、授業運営に支障が起きることになりかねない。四学期制の場合、出版社や著者にとり、タイムリーな対応が必要となろう。

Ⅳ 旅行・観光分野の英語と教科書

旅行・観光分野の英語について、金川（2007）は、「観光英語」というと、いまのところとくに定義はなく、日本語日本文化を母語・文化としない人＝いわゆる『外国人』に観光の便宜をはからうときに使う英語ぐらいの

意味で使われてきた嫌いがある。すなわち『観光英語＝観光（業）で使える英語』とまとめられるだろう」という。

ビジネス英語の場合、ビジネスの場合における英語と定義することができるので、観光英語も同様に「観光の場合における英語」といえないのだろうか。「観光英語＝観光（業）で使える英語」と定義してしまうと、文部科学省のいう「使える英語」を連想することにもなりかねないので、少なくとも「観光（業）で使われる英語」（下線は筆者）としたほうがよいのではないかと思う。

前川（1998）は、「海外旅行での英語や観光案内で使う、いわゆる観光英語を題材として英語を学びたいという希望は66件と断然多かった」といい、観光分野の英語を学びたい学生が多いようである。そして、教科書について、「リスニング、会話中心の教材の内容は全てが海外旅行中の会話であり、飛行機内、ホテル、銀行、郵便局、電話、レストラン等が場面として設定されている」という。

この論文は1998年に刊行されたものであるが、今日でも当てはまるといえるかもしれない。時代の流れとして、アウトバウンド一辺倒であったものが、インバウンドに対応した教科書が出版されつつある。ただし、インバウンドの英語はこれまであまり研究されてきたことがなかったので、その体系化は今後の課題といえよう。

V 用語・表現の検討

1. Limited Express

拙稿において、「毎日定期的に運行される急行列車が、JR から姿を消すことになったので、在来線では特急列車、快速列車、普通列車等となり、特急列車の英語表記を見直すべきではないだろうか」と述べた。

この特急列車の英語表記である Limited Express について、JR 旅客 6 社のうち売上高第 1 位である JR 東日本に問い合わせたところ、2017 年 1 月、「弊社としましては、このたび頂戴したご意見を含め、多くのお客さまのご

意見を参考とさせていただきますながら，分かりやすい英語表記に努めてまい
る所存でございます」（下線は筆者）という。この文面からは，多くのお客
からこういった意見が寄せられないと検討していただけないようにも読め
る。

その後どうなったのか再度同社に問い合わせた結果，2018年2月，「繰り
返しの回答となりますが，このたび頂戴したご意見を含め，多くのお客さ
まのご意見を参考とさせていただきますながら，ご利用のお客さまにとって分
かりやすい英語表現となるよう検討を重ねてまいります」（下線は筆者）と
いう。多少言い回しが変わり，「ご利用のお客さまにとって」とか「検討を
重ねてまいります」とあるものの，「多くのお客さまのご意見を参考とさせ
ていただきますながら」という文脈での検討となっている。

この「ご利用のお客さまにとって」とは，英語表記の問題なので，訪日
外国人旅行者にとってのこととなろう。英語による旅行ガイドブックの
シェアで世界一といわれる *Lonely Planet* では以下のとおり説明されている。

Most long-haul routes run local (called *futsū* or *kaku-eki-teisha*), express
(called *kyuko* or *kaisoku*) and limited express trains (called *tokkyu*).

Limited express trains have reserved seats, with comfortable reclining
chairs, and toilets.

この英文は以前急行列車があるときの内容であり，express および limited
express についてそれぞれ説明しているので，この英文を読む限り，疑問
は生じない。したがって，訪日外国人旅行者から意見は寄せられないかも
しれないように思われる。

一方，日本在住外国人のための生活情報冊子において，*Tokkyu Express*
と表記している事例がある。これは，従来から定期運行される Express (JR
では急行に用いる) がない地域において，在日外国人の間で分かりやすい
表記として特急を *Tokkyu Express* としたのではないかと推察される。

なお，Express の日本語表記について，2016年7月21日付け「週刊東洋
経済 ONLINE」において，「日本では特急と急行を異なる種別として認識

し、急行 (Express) は特急よりランクが低い列車であるが、海外ではそのような区別をしない。従って、Orient Express (オリエント急行) といっても特急よりワンランク下の列車という意味は全くない。スイスの Glacier Express は『氷河急行』と訳すのが定番であるが、ワンランク下の列車と誤解されるのを恐れてか『氷河特急』と訳す旅行会社のパンフレットを見たことがある。いかにも日本的な対応である」という意見がみられるが、スイス観光局の公式サイトでは Glacier Express を氷河特急と日本語表記していることに留意する必要があるだろう。

2. Room Maid

ある観光分野の大学英語教科書で、用語問題の選択肢語群に Room Maid が用いられていた。筆者は Housekeeper ではないかと思ったので、出版社に問い合わせたところ、回答として、「ホテルにはハウスキーピング (家事をこなす) 部署がありますが、家事 (管理) のために雇われた 『housekeeper』 と呼ばれるポジションはありません。ホテル部屋を掃除するために雇われた人々 (通常女性) は、通常『room meids』, もしくは『chambermaid』と呼ばれております」(下線は筆者) というが、この room meids は room maids の間違いであろう。

Housekeeper について筆者が調べたところ、JTB 総合研究所発行『旅行業実務シリーズ⑦旅行英語』には、「house keeper ハウスキーパー (ホテルの客室・調度の担当) (=house-keeping)」と記載されている。また、ホテル インターコンチネンタル 東京ベイが監修した『進化する 5 つ星ホテルのおもてなし英語』でも、「客室係がすぐにおうかがいして、お品物を取りにまいります」の英語表現として、「A housekeeper will be coming to pick up your laundry right away.」と記載されている。さらに、Housekeeper の意味についてインターネット検索をしたところ、「Housekeepers are employed either in a private home or in a commercial environment such as a hotel.」とあるほか、求人情報サイトの Indeed にも、housekeeper あるい

は hotel housekeeper という職種名でホテルのハウスキーパーの求人が掲載されている。その他、USA TODAY のインターネット版には、「The housekeeper's job must be most thankless job at any hotel. Housekeepers perform the most physically demanding work, cleaning an average of 10 to 14 rooms a day, yet are often invisible to the typical guest...」という記事がみられる。

以上から、出版社からの回答では「housekeeper と呼ばれるポジションはありません」というが、何を根拠にないというのだろうか、それとも、見解の相違ということなのだろうか。もし著者がその根拠を示していただけないというのであれば、拙稿にて提言した「セカンドオピニオン制度」による第三者の所見を求めることが双方にとって意味のあることと考える。

3. International Driver's License 国際免許証

ある観光分野の大学英語教科書に、「international driver's license 国際免許証」と記載されていた。しかし、外務省や都道府県免許センターによる英語表記は「International Driving Permit」（下線は筆者）であり、日本語表記も「国際運転免許証」（下線は筆者）であるので、出版社に問い合わせた。回答として、「正式名称は international driving permit ですが、international driver's license でも全く問題ありません。人は正式名称でのみ会話するわけではありませんから。通常の自動車免許証は driver's license であり、米国人にとっては、driver's license のほうが馴染みがあるはずです」（下線は筆者）とあり、全く問題ないという。

アメリカ人の相談相手に聞いてみたところ、次のような意見があった。

Even if “International Driving Permit” is the term that seems to carry the most “legality” with it, I can easily see that even if the official name is IDP (and it is a substitute for the American license), Americans would be inclined to also call it a “license” since that's the way we refer to our driver's licenses in the States.

この意見からは、たとえ正式には International Driving Permit であっても、一般には license と呼ぶ傾向にあるという。ではなぜ Driving Permit と呼ばないかということについて、別のアメリカ人の相談相手からは次のような意見があった。

I would guess “international driver’s license” is more familiar because driving permits are only for teenagers and not all states issue them.

したがって、日常的には、International Driver’s License というのである。後日、出版社から、「日常会話的な観点より前回のご返事をさせていただいた次第でございます」（下線は筆者）という。しかし、旅行分野の用語としては、ジュネーブ条約にもとづく正式名称である International Driving Permit としたうえで、International Driver’s License はあくまでも日常的な言い方と位置付けるのが適切ではないのだろうか。また、「国際免許証」では何の免許証のことなのかという問題があるので、「国際運転免許証」とすべきであろう。

4. Suite スイートルーム

ある観光分野の大学英語教科書に「Suite スイートルーム」と記載されていた。日本のホテルでは、「スイート」、「スイートルーム」という日本語表記がみられるので、どちらでも問題ないといえる。

しかし、『日商ビジネス英語検定 2・3 級公式模擬問題集』の初版に次の問題が掲載されていたので、問題文の間違いを指摘したことがある。

彼の出張のためにスイートルームを 1 部屋予約していただけますか。

Would you please reserve a (s) room for his business trip?

カッコ内の正答は suite となるが、英語としては suite であり suite room とはいわないので、この問題文には間違いがあることになる。そのため、同問題集の改訂版では、「Would you please a (s) for his trip? と訂正された。

したがって、「スイートルーム」と日本語表記してしまうと、英語表記を

「suite room」と誤認してしまうことを危惧したため、前述の大学英語教科書出版社にそのことを説明したうえで問い合わせた。その結果、回答として、「どちらの表現でもよろしいのではないかと考えております。出来ましたら学生さんに両方の表現をご指導いただけましたらありがたいです」という。

「どちらの表現でもよろしいのではないか…」というが、筆者としては、学生が英語表記の誤認をしないよう、教育的配慮として、「スイート」と日本語表記したほうがよいのではないかと考える。因みに、前出の『旅行業実務シリーズ⑦旅行英語』では、「suite ホテルの客室の種類。寝室のほか、に居間や応接間やキッチン、付き添い人の部屋などがある」と説明されているが、日本語表記はない。その出版社に対して日本語表記の提案をしたところ、「Suite には『スイート』という訳を冒頭に追加させていただきます」との回答があったことを付言したい。

5. Hang a right

観光英語検定試験の対策本では、右に曲がるは「turn right」「turn to the right」「make a right turn」という表現が用いられているが、ある観光分野の大学英語教科書に「hang a right」と記載されていたので、問い合わせた。その結果、回答として、「改訂発行時に『hang a right』を俗語ではない『turn right, turn to the right, make a right turn』に修正させていただければと思います」という。修正されることにはなったものの、この hang a right が使われているのは、ホテル・スタッフが宿泊客に行き方を説明している場面であり、俗語を使うという考え方そのものが不適切であるといわざるをえない。International Driver's License と同じように、著者は日常会話の場面と考えたのだろうか。

これに関連して、筆者は、ホテル現場からの意見として、『TOEIC セミナー報告書』に次のとおり述べられていることに注目したい。

「お客様をお迎えする際は、失礼にあたらない言葉で接客しなければな

りません。そのため、英語でもホテル用語があります。例えば応対の際、つい会話の中で“Okay”と言ったり、簡単な英語で相づちを打ってしまったたりすることがありますが、できるだけ、“Okay”ではなく、“Certainly”という言葉を使うようにしています。また、二重否定となる“No Problem”という言葉も、お客様の前では使いません。フォーブスのホテルの格付けでは、これらの言葉を使うと減点されます。」

このように、ホテルの現場では、日常的に使う言葉は接客表現として好ましくないことになる。こうした現場の意見は、教科書の改善のためのみならず生の意見として授業にも役立つように思う。

6. Cleaning Service

ある観光分野の大学英語教科書に、次の英作文問題が記載されていた。

問題：午前10時までにクリーニング・サービスを頼めば、今日の午後6時には仕上がります。

英訳例：If you ask for the cleaning service by 10 a.m., your clothes will be ready at 6 p.m. today.

cleaning service と英訳しているが、清掃サービスの意味もあるので、出版社に問い合わせたところ、回答として、「改訂版出版時に laundry service に修正させていただきます」という。では、英訳する際なぜ laundry service ではなくて cleaning service を選択したのか疑問が残る英文である。

7. Refund

ある観光分野の大学英語教科書に、カッコ内に選択肢語群から refund を選ぶ問題が記載されていた。

Can I have a () on this sweater?

このセーターを返品できますか。

返品を refund と和訳しているので出版社に問い合わせたところ、回答として、『「セーターを返品できますか」とはセーターを返品して、その結果

として返金してもらうことなので、この日本語で問題はないと考えております」という。

筆者としては、返品・返金について Returns and Refunds という表記が企業のホームページでみられることから、return は「返品」、refund は「返金」と区別すべきであると考ええる。また、この回答では「セーターを返品して、その結果として返金してもらうことなので、この日本語で問題はない」というが、Returns and Exchanges という返品して交換することもあるので、同義語でなければ、用語はきちんと区別する必要があるのではないだろうか。

8. 空港のチェック・イン・カウンターでの航空会社担当者と乗客との会話

ある観光分野の大学英語教科書に、次の会話が記載されていた。

筆者が理解する場面設定は以下のとおりである。

- (1) 乗客である Yoko はロサンゼルス行き360便に乗る予定であるが、1時間遅れる。
- (2) Yoko はデトロイトで接続便がある。
- (3) Clerk はロサンゼルス行き NW337便に予約変更した。

Flight 360 bound for Los Angeles will be delayed one hour. Boarding will take place at 12:30 p.m.

Yoko: Excuse me. I've just heard flight 360 has been delayed.

Clerk: I'm sorry, but that flight is delayed about one hour due to bad weather.

Yoko: Really? I have a connecting flight at Detroit. I'm afraid I can't make it. What should I do?

Clerk: Don't panic. Maybe, I can find another flight from Detroit for you. May I see your ticket?

Yoko: Here it is.

Clerk: Let's see. You are now booked on United 268 leaving Detroit Metropolitan Airport at 1:30 p.m. I'll put you on Northwest 337 to Los Angeles. It'll be leaving at 3:25.

Yoko: What about my luggage?

Clerk: Don't worry. We'll see that it's transferred to Northwest 337.

Yoko: Good.

Clerk: We're sorry for the inconvenience.

この会話から、Yoko はデトロイトで接続便があるが、Clerk はロサンゼルス行き NW337便に予約変更したものの、デトロイトとロサンゼルスとの区間でどう乗り継ぐのか意味不明な内容となっており、予約変更された旅程がどうなったのか不可解といわざるをえない。出版社に問い合わせたところ、回答として、「改定版発行時に修正させていただきます」という。どうしてこのような会話の英文になったのか疑問で仕方がない。

言葉尻を捕らえることになるが、この回答では「訂正」ではなくて「修正」という言葉が使われている。「修正」とは「不十分・不適当と思われるところを改め直すこと」で、「訂正」とは「誤りを正しく直すこと。特に言葉や文章・文字の誤りを正しくすること」であるが、「修正」は間違いとは限らない場合、「訂正」は間違いである場合という見方ができるので、出版社はこの会話文の間違いを認めていないとも読めることになる。筆者は、この会話について予約変更された旅程が不可解であるので、間違いではないとするならば、きちんと説明責任を果たしていただきたいと思う。

9. When is the next train due?

ある観光分野の大学英語教科書にこの例文が記載されていた。アメリカ旅行を取り上げた内容なので、アメリカでこのような言い方をするのだろうかと思い、出版社に問い合わせた。回答として、「この表現を発話したのは、Hiroshi ですから、別にアメリカ英語に固執する必要はないかと思えますし、こういう表現もある、という学習者の視点も考慮すべきと考えま

す。Hiroshi がアメリカ英語しか知らないというのもおかしいですし、本書のユーザーが米国にしか旅行しないわけではないのですから、様々な表現を知することは、学習者にとって有益かと思っております」といい、見解の相違ということらしい。

筆者は、アメリカ旅行を取り上げた内容であるので、アメリカ英語の表現（例えば、When is the next train?）を用いる一貫性が必要であり、イギリス英語の表現も併せて記載するのであるならば、その旨補足すべきではないかと考える。注記もなく英米の表現を記載するのは、グレゴリー・クラーク（1993）のいう「フルーツサラダ・アクセント」のように、首尾一貫性を欠くことになり、コミュニケーション上好ましいことではないであろう。因みに、インターネット上でのイギリス在住者の書き込みには、「きっちり電車がやってくる方が奇跡に近いイギリスでは、通常 When is the train due? 『電車っていつ来ることになっていますか』といった表現を使う人が断然多い」という。

10. Lost and Found 拾得物取扱所

ある旅行分野の大学英語教科書に、次の例文が記載されていた。

Where is the lost and found office? (拾得物取扱所はどこですか)

「拾得物取扱所」とあるが、Lost and Found を「拾得物取扱所」と訳すことは聞いたことがないので、出版社に問い合わせたところ、「ご指摘通り、『遺失物取扱所』が正しい訳語です。テキスト重版の際は訂正します」という。

観光英語検定試験では「遺失物取扱所」と表記しているので、なぜ「拾得物取扱所」としたのか疑問が残る。成田空港では「遺失物窓口」、JR では「お忘れ物承り所」と表記しており、拾得物という言い方はしていないので、実際の現場でどう表記されているかという視点が欠如した例ではないかと思われる。

11. Special of the day 本日の特別料理

ある旅行分野の大学英語教科書に、次の例文が記載されていた。

What is the special/soup of the day?

本日の特別料理／スープは何ですか。

What is the special of the day? は「本日のおすすめは何ですか」のことであるが、「特別料理」とあるので、出版社に問い合わせたところ、「著者の先生方と相談いたしました結果、『本日の特別料理』ではなく適切な『本日のおすすめ料理／スープは何ですか?』という訳に修正させていただきたく存じます」という。レストランの場面なので、レストランではどう日本語表記されているのかという視点が必要であろう。特別料理と訳してしまうと、文字通り特別な料理のこととなってしまう、日替わりのおすすめ料理とは意味合いが異なってしまうことになる。

筆者としては、旅行・観光分野の英語が、日常英語と大きく異なる点として、実務的側面を有することを申し上げたい。実際の現場においてどう表記されているかという視点、そしてそれに対して研究者・教員の立場からどう考えるのかという視点も問われるように思う。実際の現場に立脚したものでなければ、机上の空論になってしまうであろうし、英語圏ではない日本での英語表記の問題点もないとはいえないからである。

なお、用語の日本語表記のなかには、時代とともに変わりつつあるものがあり、実際の現場での表記には絶えず注意を払う必要がある。例えば、Baggage Claim Check [Tag] は「受託手荷物引換証」と日本語表記することが多いが、「手荷物控え」や「手荷物預かり証」と表記するケースが増えつつある。拙稿において、「今日、わが国では、国際線、国内線ともに、到着空港で手荷物を引き取る際、受託手荷物引換証は要らなくなっているので、『受託手荷物預かり証』としたほうが実態に合っているであろう」と述べたが、利用者にとってわかりやすい平易な表記として「手荷物控え」、また手荷物預かり機の導入により「手荷物預かり証」という表記が使われ始めているのである。

Ⅵ 大学英語教科書出版社からの意見や反応

1. A社のケース

この出版社に問い合わせたところ、次のとおり回答があった。

「著者にも問い合わせておりますが返答をいただいております。しかしながら、お問い合わせいただきました点につきましては、ご指摘いただいた方が適切な表現と考えます。次版印刷時に訂正させていただきたいと思えます」(下線は筆者)という。以下は、そのときの問い合わせた内容である。

(1) be supposed to

「…する予定である」と書いてありますが、「…することになっている、…するはずである」ではないでしょうか。

ジーニアス英和大辞典によると、「(1) …だと [すると] 思われている；…のはずだろう、(2) …することになっている、するはずである」と記載されているので、「…の予定である」の意味とはならない。また、ビジネス英語の場合、「…の予定である」に相当する英語表現は、be scheduled to や plan to であり、be supposed to とはならない。

(2) safe は「貴重品入れ」と書いてありますが、「貴重品入れ」には金庫のほかに身に付けるものの2つの意味があります。ホテルの場面では、金庫（たとえば in-room safe）のことになるのではないのでしょうか。

これも同大辞典によると、「金庫」と記載されているので、「貴重品入れ」とは貴重品を入れておくポーチのようなものになってしまう可能性がある。

(3) Master Card と書いてありますが、「MasterCard」ではないでしょうか。

従来このカードの表面には「MasterCard」と表記されているので、それに合わせるか、あるいは同カード会社のホームページで表記されている Mastercard に合わせるべきであろう。

(4) work は作品と書いてありますが、「works」ではないでしょうか。

同大辞典によると、作品の意味では「[通例～s] (芸術などの) 作品、

著作」とあるので、works と表記すべきであろう。s をつけるつけのないの問題だけではなく、customs (税関)、facilities (設備、施設) のように複数形で使う場合、意味が異なるので注意を要する。

(5) equivalent は「…に等しい」と書いてありますが、「…に相当する」ではないでしょうか。

同大辞典によると、「同等の」と記載されており、日本語の差異にも注意が必要であろう。等しいとは「二つ以上の物事の間で、その数量・程度・形状などに相違がない。同じである」ことであるのに対して、同等とは「程度・等級などが同じであること。また、そのさま」とあり、意味合いが異なる。ビジネス英語の場合、「同等の」あるいは「相当の」と訳し、「等しい」という訳し方はしない。

(6) be subject to は「…しやすい」とありますが、「…を条件する、…があることを条件とする」ではないでしょうか。

同大辞典によると、「[…に] かかりやすい、[…を] 受けやすい」とあるので、著者はこのように訳したのである。ビジネス英語では、「…を条件として」と訳すように、この教科書の当該部分には「All schedules are subject to change without notice.」とあるので、「…があることを条件とする」と訳さないと意味をなさないことになろう。

出版社から回答をいただくのに20日もかかり、しかも著者からの返答がないという内容であった。出版社の判断にて回答できる内容であれば話は別であるが、著者として回答する責任があるのではないだろうか。works は単なる s の付け忘れなのかもしれないが、be supposed to, safe, equivalent, be subject to に関しては、旅行分野の英語としてではなく日常場面の英語として意味を解釈しており、混同がみられる。実際の場面に照らして捉えるのであれば、このような混同は考えにくく、どうしてこのような意味の取り違えが生じたのか説明すべきであろう。

2. B社のケース

この出版会社から、教員の方針と教科書との関係について、次のような意見をいただいた。

「先生からではなく選定していただく側から『授業の方針には合わない』と言ってしまうことは筋違いで、むしろ出版社は教科書を授業の方針にあわせて使用していただくことを先生方へお願いする立場であるはずです。…ただ、過去のやり取りを鑑みるに、現状ではまだご期待にはそえられないのではないか、ということにつきましては、残念ながら認めざるをえないところです。ご採用につきましては、弊社の教科書は検討の対象外にしていただきますようお願い申し上げます」という。

以前、この出版社の教科書を使用したところ、いろいろと疑義が出てきたため、出版社の判断にて教科書の内容を再点検することになり、その結果、21箇所の訂正が行われた経緯がある。この回答内容からは、(1) 現状ではまだご期待にはそえられないのではないかということを残念ながら認めざるをえない、(2) 弊社の教科書は検討の対象外にしていただきたい、ということになる。筆者としては、学生に対し教育内容に責任があるので、良質な教科書づくりを求めているのであり、検討の対象外にしてほしいという回答をいただき、改善に繋がる問い合わせやフィードバックについてどう考えているのか疑問を感じる。企業の場合、ユーザーや消費者からの声に耳を傾けて改善に取り組んでいるが、教科書出版業界においてはそういった発想はないのだろうか。

3. C社のケース

この出版社の旅行分野の大学英語教科書には日本の特急を special express と英訳していた。

拙稿において、筆者は「日本の場面設定なので日本ではどう表記されているのかを踏まえるべきであろう」と述べた。先に考察したとおり、日本を代表する鉄道事業者である JR 各社では、Limited Express と英語表記し

ている。この教科書は、インバウンドのためのものとして日本各地を紹介しているの、日本でどのように英語表記されているのかという視点が欠如しているといわざるをえない。出版社からは、「該当の箇所につきまして、著者の先生へお知らせをし、増刷の際に反映をさせるか、ご検討していただくことと致します」という回答があったが、その後の検討結果については、督促しても返事がなかった。もし真摯に検討されるのであれば、その結果を知りたいと思う。

4. D 社のケース

この出版社から、回答を督促したところ、「来年度の教科書制作を少ない人員で鋭意行っておりまして、なかなか迅速な返信ができず申し訳ございません」という。少ない人員で教科書を制作しているため回答する余裕がない状況が窺える。もしそうであるならば、内容について十分吟味をした良質な教科書づくりを行えば、内容に関する問い合わせが少なくなり、回答に要する手間や時間も少なくなるのではないだろうか。また、問い合わせが寄せられた場合でも、十分吟味をした教科書であれば、想定内の問い合わせである可能性もあろう。

最後に、筆者として言及しておきたいことがある。それは、出版社が問い合わせに対してどう対応しているのかは、まるでブラックボックスのようであることである。誰がどういうプロセスや判断を経て回答しているのか不透明であるからである。著者からのものなのか、出版社の編集担当が著者に問い合わせたうえでのものなのか、出版社の編集担当が作成したもののなのか、あるいは双方が検討・協議したうえでのものなのか不明に思う時がある。出版社に問い合わせる以上、出版社からの回答がすべてであることになるが、著者自身の言葉で回答をいただきたいと願う次第である。ある出版社からの回答のなかで、筆者の質問に対し「回答案」という言葉が使われていた。その出版社は著者からの回答というのであるが、著者が

自ら「回答案」という言い方をするのだろうか疑問を感じるとともに編集担当が「回答案」を作成したのではと憶測してしまう。教員からどういう問い合わせがあるのか、出版社は著者とも情報共有をしてより良い教科書づくりに生かすべきであろう。

VII インバウンドの新たな英語検定

英語応対能力検定が、2017年3月からスタートした。その公認教材によると、「訪日外国人の増加に伴って、接客現場や街かどで基本的な英語で応対する能力の向上が求められています。その一方で、そのような実情に即した基本的な英語力の評価基準はまだありません」という。訪日外国人旅行者にサービスを提供するためのインバウンドの英語検定として注目しているが、公認教材である『とにかくひとこと接客英会話』に次のような記載が見られる。

1. Where is the dining car? 食堂車はどこですか。

今日、クルーズトレインをはじめとする観光列車以外には食堂車は存在しないため、この例文が使われるのは極めて限定的と思われる。出版社に問い合わせたところ、「今後の改訂などの機会に参考にさせていただきます」（下線は筆者）ということであり、「参考」にする以上のものではないのかもしれない。

2. We serve Japanese-style breakfasts. 和朝食をご提供しております。

和朝食を提供する大手のホテルを調べたところ、この例文のように複数の種類の和朝食を提供しているところが見当たらなかった。出版社に問い合わせたところ、「breakfasts ですと、何種類か種類があることを示すことができるため、この書籍では複数形としております。1種類しかないときなどはbreakfast 単数形でも問題ございません」という。複数形を例文としているので、何も説明がないと読者に誤解を与えかねないであろう。

出版社からの回答には「英語学習初心者をターゲットとして制作いたしましたため、極力シンプルな表現、解説を厳選しております」とあるの

で、使える例文をさらに厳選してほしいように思う。この検定はスタートしたばかりなので、今後の改善に期待する次第である。

VIII お わ り に

筆者は、拙稿において述べたとおり、教育とは教員、学生、教科書の三位一体と捉えており、教科書の著者と出版社にも応分の責任があるものと考えている。これまで、出版社に問い合わせを行い、その後見解の相違という言葉で平行線となってしまうことを経験してきた。教員は学生への教育に責任があるので、教員からの問い合わせに対して、可能な限り合理的かつ納得できる回答をしていただくことを著者および出版社に要望したい。そして、著者および出版社は、教員に対して、斯界のプロとして模範となる内容を示していただきたい。新刊書の場合、自動車の新型モデルの初期不良と同様、不具合が出てくることがあろう。人間である以上、誰しもミスをするのは致し方ないことであり、筆者も然りである。旅行・観光分野を専門とするある出版社はホームページに正誤表を掲載し公開しているが、ほとんどが誤字脱字の類であり、軽微なミスといえる。しかし、誤字脱字ではなく、内容に関わるミスの場合、見解の相違を理由にその原因を究明しなければ、質的改善に繋がらないように思う。ある小・中・高の教科書出版社は「より良い教科書をより多く発行することで、日本の未来を担う人材を育成する。教科書会社の社会的使命の根本はそこにあると考えます」という。「より良い教科書」ということは、大学英語教科書についてもいえることであり、また教科書づくりのキーワードでもあり、このことに尽きるといっても過言ではないであろう。

参 考 文 献

- 『平成28年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（観光サービス産業の国際競争力強化に関する調査）報告書』、日本総合研究所、2017年。
前川智子「学習意欲を高めるための教材を求めて——観光英語の導入に関する一考察——」『長崎総合科学大学紀要』（第38巻第2号）、1998年。

関根：旅行・観光分野の大学英語教科書についての一考察

金川由紀「観光英語についての一考察：観光英語とは」『平安女学院大学研究年報』(第8号), 2007年。

原田健太郎「大学教育に影響を与えるもの——大学教科書の検討を通して——」『大学教育研究ジャーナル』(第10号), 徳島大学, 2013年。

関根幸雄「大学英語教科書についての問題点と提言——旅行英語およびビジネス英語を中心としたケーススタディ——」『修道商学』(第57巻第1号), 広島修道大学, 2016年。

『2017年度 TOEIC セミナー報告書』, 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2018年。

関 優子『進化する5つ星ホテルのおもてなし英語』, 東京書籍, 2015年。

グレゴリー・クラーク『グレゴリー・クラーク先生の暗号解読法があなたの英語に奇跡をおこす!』, 同文書院, 1993年。

『とにかくひとこと接客英会話 交通編』, 旺文社, 2016年。

『とにかくひとこと接客英会話 宿泊編』, 旺文社, 2016年。